

2021年6月18日

東京学芸大学 文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制整備事業」2021

企画開発会議調査部会 第1回ヒアリング資料

岐阜県立加茂高等学校

岐阜県立加茂高等学校の外国人児童生徒等の教育

生徒の実態

本校に在籍する生徒は様々な背景を持っており、日本で出生した生徒から、来日1年未満までの生徒が在籍しています。学力、日本語能力に関しても幅広く、中学での学習をしっかりと理解している生徒もいれば、基礎学力の学び直しが必要な生徒もおります。また、日本語能力検定N1に挑戦する生徒も、適応指導員（通訳）に授業に入り込んでもらうなどの支援が必要な生徒もおります。

生活面では経済的に困難を抱える生徒が多く、授業料等の遅延も少なくありません。定時制という特性上、昼間はアルバイト等で働く生徒が大半を占めており、その賃金は家庭の生活を支えるために使われることも多くあります。また、年の離れた幼いきょうだいを持っている生徒もおり、その面倒を見るために就業できない、いわゆるヤングケアラーも存在しています。

進路に関しては、キャリア認識、正社員への希望は高く、卒業後は正社員として働きたいという生徒が多いと感じています。ただ、昨年からのコロナ禍において、企業の求めるハードルが高くなり、それを超えられない生徒がいるのが現状です。昨年度の就職状況は以前に比べてあまりよくありませんでした。

日本語指導・教科学習支援

本校では教育課程上の日本語指導の設定はありません。受け入れ体制は、適応指導員の配置など他校と比べれば整っていると思います。しかし、まだまだ十分であるとは言えず、教員数の増加を望んでいるところです。

教科学習支援の一環として、各教科担任が授業プリントの作成を行っています。漢字にはフリガナをつけています。フリガナも学年に応じて段階的に減らしていき、卒業後に日本社会の中で生活する際に困らないように工夫をしています。

また、日本語で自分の意見を伝えることができるようにと、「日本語プレゼンテーション大会」を年に1度開催しています。毎年統一テーマを定め、多国籍からなるグループでプレゼンテーションを作り上げます。昨年度は「加茂高校定時制を紹介しよう」というテーマのもと、各グループが素晴らしい発表をしてくれました。クラス予選で勝ち残ったグループは

決勝大会へ進み、全校生徒の前でプレゼンテーションを行います。のちに国際交流協会主催の中学生向け学校紹介に呼んでいただき、実際に中学生に加茂高校定時制を紹介する機会をいただいたチームもありました。

進路支援・キャリア教育

本校は岐阜県国際交流協会と連携して、年に一回、2年生と4年生を対象にライフプラン講座を開講しています。ライフプラン講座では、雇用保険や福利厚生についての話をさせていただき、正規雇用と非正規雇用の違いについて学びます。この講座を開催するようになってから、生徒たちもより強く正規雇用を意識するようになったと感じています。

また、美濃加茂市と連携し、外国籍生徒のための企業説明会を今年度開催する予定です。外国籍のための企業説明会は、数年前に近隣の全日制高校と合同で開催したことがありますが、外国籍生徒にターゲットを絞ることで、企業とのマッチング促進に一定の効果があったように思います。ここ2年程開催できていませんが、今年度は小規模で、より細かいところまですり合わせができるような会を企画しているところです。

このように、関係機関と連携してご協力いただきながら、外国籍生徒の進路選択の幅を増やしたり、長期の雇用につなげたりできるよう取り組んでいます。